

1 研究主題

コミュニケーション能力を養う授業の創造 ～主体的な学びをつくる授業づくり～

【外国語】 必然性のある場面設定を通して、コミュニケーション能力の素地を養う

【社 会】 自ら考え、伝え合える場面設定を通して、社会的事象の見方・考え方を育てる

2 主題設定の理由

【外国語】

本校では、これまで「国際社会に生きるコミュニケーション力の育成」を主題にして、外国語活動に取り組んできた。コミュニケーション力を高めるためには、相手の言うことを注意深く聞いて相手の思いを理解しようとする力（受容力）や自分の思いを伝えようとする力（表現力）を養うことが大切である。

これまで、「コミュニケーションの素地を養う」を研究主題として、児童が発話したくなる場面を設定することや、アートのリンクの取り組みやアジア少年少女国際交流事業、ALTとの関わりを通して「異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める」活動に重点を置いて取り組んできた。

2018年度（平成30年度）の児童アンケートの結果は次のとおりである。

①英語活動は楽しい。	90.3%
②自分から進んで英語を話そうとしている。	86.4%
③身振り、手振りで工夫して伝えようとしている。	78.9%
④外国の生活や行事などに興味がある。	81.3%
⑤英語と日本語の違いや、よく似ているところが分かる。	92.0%

「外国語活動は楽しい」と感じている児童は約90%であり、進んで英語を話そうとする児童は8割を超えている。ALTとの活動を楽しみにして、積極的にコミュニケーションを図っている児童も多い。しかし、「身振り、手振りで工夫して伝えようとしている」は、78%にとどまり、何とかして伝えようという意識が十分にあるとはいえない実態がある。また、「外国の生活や行事などに興味がある」の数値が低かったことから、学年ごとに、どのような場面で表現の違いや文化の違いを扱えるか考え、授業の中に意識的に取り入れて興味をもたせ、理解を深めるようにすることが必要である。

今年度も、全学年「必然性のある場面設定」をさらに意識して授業改善を進めていく。「じっくり考える」「はっきり表現する」「くり返し挑戦する」場面を意図的に活動に取り組み、城北中学校区小中一貫教育の目指す子ども像を意識した授業展開を行う。

さらに、来年度からの新学習指導要領全面实施を視野に入れ、音声面を中心にしながら、中学年では2技能3領域（「聞く」「話す(やり取り)」「話す(発表)」）、高学年では4技能5領域（「聞く」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「読む」「書く」）すべてを用いた活動を取り入れるよう工夫する。特に、高学年では、「書く場面」に焦点を当て、児童が外国語を書く場面を意図的に授業に取り入れる。書く必然性のある場面設定について、今後も継続して研究を進めていく

【社会】

平成 28 年 8 月、次期学習指導要領の改訂を前に、中央教育審議会教育課程部会において「審議のまとめ」が示された。

公民としての資質を育成するという総合的な目標のもとに、

- ・「社会的な見方・考え方を働かせ」
- ・「課題を追究したり、解決したり」→よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育てる。

現行の学習指導要領の方向を引き継ぎ、方策を明確化・具体化して推進するとされている。

本校では、教育活動全体で（表現する）目標をふまえ、社会的事象の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実を図ることを目指し、思考ツールを活用することで、さらなる授業改善を行う。

3 めざす子ども像

本校では、めざす子どもの姿を次のように設定している。

- ・じっくり考える子
- ・はっきり表現する子
- ・くり返し挑戦する子
- ・おもいやりのある子

これらをもとに、本校のめざす子ども像を次のように考えた。

外国語活動・外国語でめざす子ども像

- (1) 積極的に外国語を聞いたり、話したりする子
- (2) 友達との関わりを楽しみ、自分の思いをはっきり相手に伝えようとする子
- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があ
ることに気づく子

社会科でめざす子ども像

- (1) 社会的事象に興味をもち、進んで課題解決に取り組もうとする子
- (2) 調べたこと・考えたことを、根拠をもって表現する子
- (3) 地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚をもつ子

4 研究の仮説

【外国語】

聞く・話す・読む・書くなどの体験的な学習活動を中心にして、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いに気づかせ、積極的に発話したくなる場面を設定し、親しみやすい英語を用いた表現活動に取り組めば、コミュニケーション能力の素地が養われるであろう。

【社会】

知識の構造化による教材研究を進め、知識と知識をつなげる「問いと資料」の精選をし、自ら考え、伝え合える場面設定をすれば、社会的事象の見方・考え方が養われるであろう。

5 研究内容

【外国語】

- (1) 発話したくなる場面設定（K…くり返し粘り強く挑戦する）
- (2) 親しみやすい外国語を用いた表現（書く）活動（H…はっきり表現する）
- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動（J…じっくり考える）

【社会】

- (1) ねらいに迫る問いと資料の設定（K…くり返し粘り強く挑戦する）
- (2) 根拠を明らかにした表現（H…はっきり表現する）
- (3) 自ら考え、伝え合える場面設定（J…じっくり考える）

6 研究の手だて

【外国語】

- (1) 発話したくなる場面設定

【授業時】

- ①発音、リズムを楽しむ歌やチャンツの工夫（スピード、順番の変化など）
- ②ゲームや「ごっこ」遊び、ショーアンドテルなどの活動
- ③デジタル教材や、**インフォメーションギャップ**を利用した教材の工夫
（“Let’s Try!” “We can!” の活用、教材開発）
- ④ALTを活用した児童の興味関心を引き出す活動の工夫
- ⑤他教科との関連を活かした思考を伴う活動の工夫

【授業外】

- ①楽しく英語表現にふれる機会の充実
（明王台小学校英語検定、同じ単語やパターンの繰り返して構成された絵本の読み聞かせ等）

- (2) 親しみやすい外国語を用いた表現（書く）活動

【授業時・朝のショートタイム】

- ①活動方法…インタビュー・ショーアンドテル・クイズなど
- ②表現方法…言語（「話す」「書く」）・ジェスチャー・絵・写真など

- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動

【授業時】

- ①ALT とのトーキングタイムにおける言語や文化の体験的理解
- ②日本と外国の生活などの違いに気づかせる教材（写真など適宜）

【授業外】

- ①外国の生活などを知る活動（朝のショートタイムの充実）
- ②生活様式や慣例の紹介（本の読み聞かせなど）

【社会】

- (1) ねらいに迫る問いと資料の設定

①単元全体を見通した知識の構造図

- ア 知識の構造化による教材研究を進める。
- イ キーワードによる構造的な板書を工夫する。
- ウ 知識と知識をつなげる問いの精選をする。
 - ・“なぜ、～だろう”（原因と結果を問う）
 - ・“～とは何だろう”（社会事象の意味を問う）

(2) 根拠を明らかにした表現

- ①調べたこと・考えたことを、根拠をもって表現する
 - ・「～です。わけは…。」(低学年)
 - ・「たとえば、…。(事実)」「つまり、…。(解釈)」(中・高学年) を使って
- ②個→ペア・グループ→全体交流により、学びを深める
- ③単元全体をまとめる上位概念を形成させる(振り返り)

(3) 自ら考え、伝え合える場面設定

- ①思考ツールによる思考の可視化
 - Xチャート、Yチャート、クラゲチャート等

7 検証の指標(授業評価)

【外国語】

- (1) 発話したくなる場面設定(K…くり返し粘り強く挑戦する)
 - ①積極的に伝えたくなる場面設定であったか。
 - ②児童は活動を楽しみ、進んで伝えようとしていたか。
- (2) 親しみやすい外国語を用いた表現(書く)活動(H…はっきり表現する)
 - ①身振り・手振り・うなずきなども交えながら、既習の英語表現を用いて、話したり書いたりしていたか。
 - ②定型文に1文(自分の気持ち)を加えて、表現していたか。
- (3) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動
 - ①日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知る活動場면을意図的に設定していたか。

【社会】

- (1) ねらいに迫る問いと資料の設定(K…くり返し粘り強く挑戦する)
 - ①資料は適切なものであったか。
- (2) 根拠を明らかにした表現(H…はっきり表現する)
 - ①児童は根拠をもって、自分の考えを表現して(書いて)いたか。
- (3) 自ら考え、伝え合える場面設定(J…じっくり考える)
 - ①児童は資料を手掛かりに、自分の考えを持つことができていたか。(思考ツールの活用は有効であったか)
 - ②対話的で、深い学びになっていたか。

8 授業展開

【外国語】

既習の英語表現を使って、できるだけ多くの言葉をインプットさせるような授業展開をする。授業では、ALTだけでなくHRTもクラスルーム・イングリッシュを積極的に用いたり、様々な活動場面で使える反応・相づちなどの表現を児童にも活用させたりすることで、児童が英語に触れ、主体的に表現できる機会の充実を図る。

また、授業の初めに本時の流れを示して見通しを持たせたり、ヘルプコーナーを設けたりするなど、全ての児童が安心して活動に参加できるよう工夫する。

指導に当たっては、単元を通してどのような力をつけるのか、目指す児童の姿を見据えた単元計画を立て、それに基づいて授業を行う。

<授業展開例>

学習の流れ	主な活動	学習内容
であう	Greetings あいさつ	Good morning everyone. ※高学年は城北中校区統一のあいさつ
	Song 歌	♪Hello.
ふれあう	Small Talk	ALT の話を聞く
	学習のめあて	本時のめあてを知る。
	Chant 発話練習	前時の復習 新しいことばのインプット
	Activity 活動	めあてにそった活動 ゲーム, インタビューetc
みとめあう	振り返り	めあてにそって振り返りをする。
	Greetings あいさつ	♪Good -bye. ♪See you. ※高学年は城北中校区統一のあいさつ

※城北中学校校区統一のあいさつ

【授業始め】

係 : Stand up, please.
Let's start today's English lesson.
全員 : Yes, let's. Let's work hard.
係 : Sit down, please.

【授業終わり】

係 : Stand up, please.
That's all for today's lesson.
全員 : Good work, everyone.
先生 : See you next lesson.
全員 : See you. Thank you very much.

【社会】

単元を貫く問い・課題の設定

社会的な
見方・考え方を

時間
空間
相互関係

働かせて

- ・ゴールを明確にした単元構成
- ・知識の構造図による事実と概念の関係の明確化
- ・考えたくなる資料提示の工夫

学習課題

主体的に考え
ようとするため
のしかけ

今までの知識との
ズレによる
疑問・驚き

見通し

思考1
予想・既習の概念
事実をもとに

調べる・考える

思考2
資料から
「気づきは…」

思考ツールによる
思考の可視化

表現する・交流する

伝え合う
考え合う
場面設定

思考3
考えを深める
ペアで・グループで

振り返る

思考4
キーワードで
自分の文章で
「つまり…」

社会のしくみが分かる
社会への関わり方が分かる
→よ来越い社会への選択・判断ができる